

天端検査治具「ひとり立ち」ご利用方法

株式会社エヌ・エス・ピー

天端検査治具「ひとり立ち」は、基礎天端の精度確認が簡単にできる治具です。
「0セット」機能付き受光器と組み合わせることで、基礎天端の高さを確認することができます。

■特徴

- ・受光器と合わせて基礎天端の高さを確認することが出来る治具です。
- ・アンカーボルトの高さは5mm刻みで40mm～75mmまで確認できます。
- ・レベラーの不陸を回避できるように下部を一部切り欠いています。

■利点

- ・**デジタル受光器**と組み合わせることで基準点と高さの差を具体的な数値で簡単に確認できます。
- ・**0セット機能**付き受光器と組み合わせることで細かく受光器の設置位置を合わせる必要がなくなります。さらに締めるときにズれてしまうこともありません。
- ・「ひとり立ち」は自立するため、手ブレすることなく誰でも同様の精度で天端精度の確認ができます。
- ・今まで光学式レベルを使用していた場合は、2人で行っていた作業が、1人で出来るため時間短縮が可能です。

※デジタル受光器とは…読み取り数値が数字で表示される受光器。

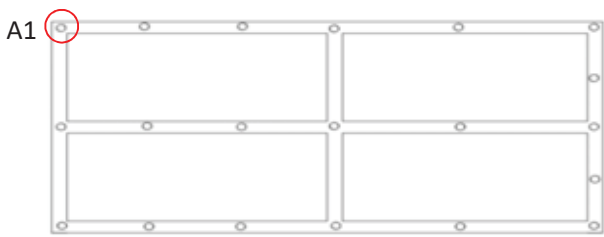
※0セット機能とは…受光幅の中で任意の位置を基準(0位置)に設定できる機能。

■品番・品名

8212262 天端検査治具「ひとり立ち」

■使用例(1)

「ひとり立ち」と0セット受光器を用いた計測までの使用例は下記になります。

基準点設定	①基準となる高さの箇所(A1とする)を決めます。 例) 下記図面の場合、○の位置が計測する必要のある箇所となります。 この中で基準となる点(○印:A1とする)を決めます。 このA1との高さの差が簡単に確認できるようになります。  ○: A1(基準点) ○: 計測点
設置・取り付け	②「ひとり立ち」へ受光器を取り付けます。 0セット受光器を「ひとり立ち」の持ち手部分に取り付けます。  上部写真 正面写真

設置・取り付け

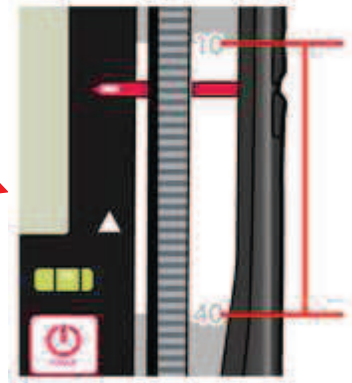
③受光器を0セットします。

A1に「ひとり立ち」を置いて0セットボタンを長押しするとレーザーを受けている点が基準となりA1の高さに合わせることができます。

【設置、取り付け時の注意】

- ・レーザーレベル設置時は「ひとり立ち」の受光器固定部分にレーザーが来るように高さをある程度合わせて設置して下さい。
- ・0セット受光器を取り付ける際は基準からの距離が上は10mm、下は40mmの位置に収まるように取り付けて下さい。

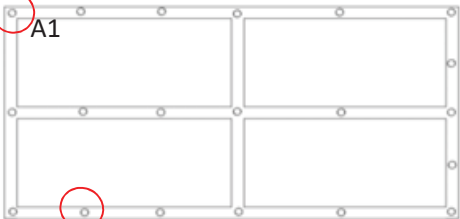
※0セットは基準点から上に10mm、下に40mm(計50mm)の範囲で任意に設定できます。

0セット受光器	受光部拡大
	

④受光器(0セット済)を取り付けた「ひとり立ち」を計測点に置きます。

例) 計測点B3を測定するため、「ひとり立ち」を計測点B3に置きます。
基準高さの計測点A1との差がデジタル数値で確認できます。
下図のように計測した数値をそのまま記録していくことができます。

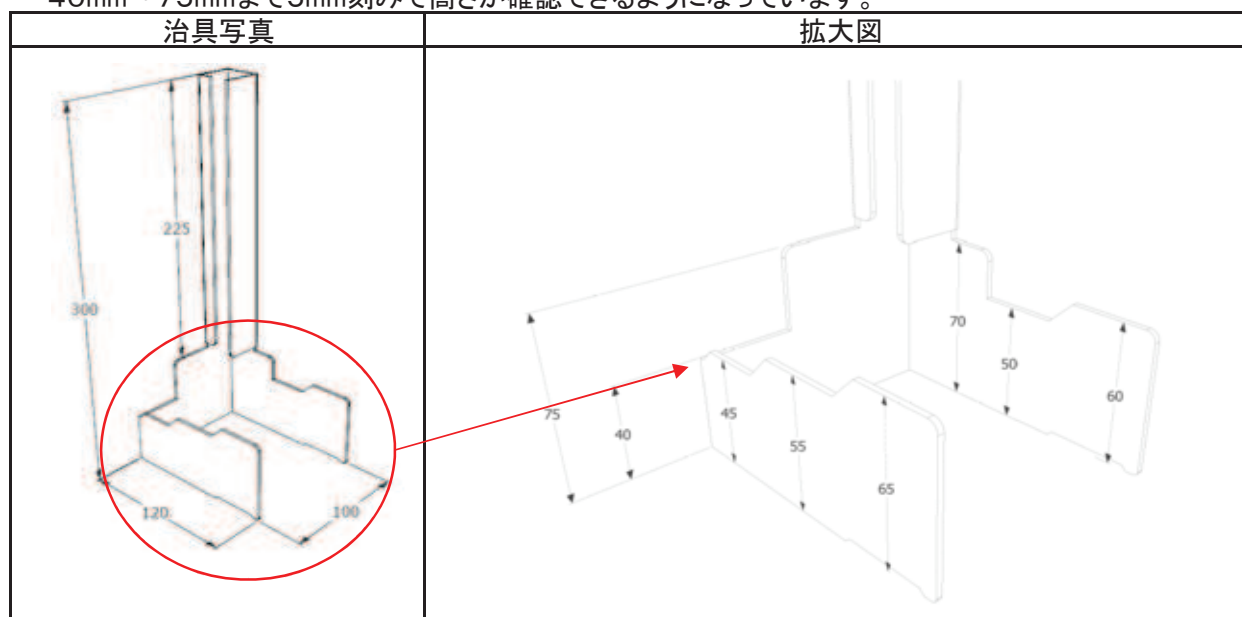
計測

計測点	計測点表示画面	計測値記録例
		0 A1 0 計測点B3 

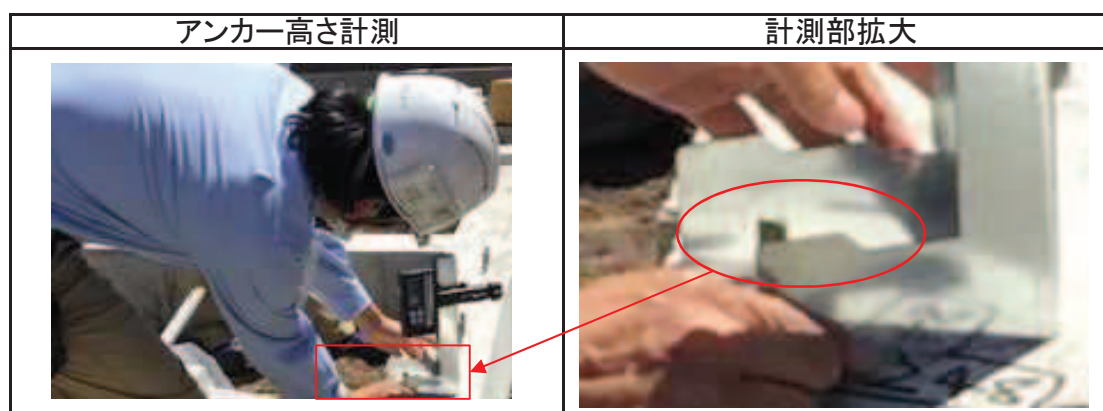
■使用例(2)

アンカーボルトの高さ確認について

- ・治具の段差でアンカーボルトの出寸法を確認できます。
- ・40mm～75mmまで5mm刻みで高さが確認できるようになっています。



40～75mmまでアンカー出寸法確認用に設定しています。



基礎天端の計測をしながらアンカーボルトの出寸法も確認できます。

■使用例(3)

治具下部に切り欠きがあるため、表面張力によるレベラーの不陸も回避して計測できます。

